

県立博物館の概要

本館・教育資料館・自然学習園からなり、地学、植物、動物、考古、歴史、民俗、教育の7部門の総合博物館

◆本館

- ・昭和46年4月 開館
- ・県の明治百年記念事業として建設
- ・本館は、理工・美術部門を除く総合博物館として、山形県の自然・文化の流れを展示

◆教育資料館(分館)

- ・昭和55年10月 開館
- ・国指定重要文化財である旧山形県師範学校本館を解体復元 教学102周年を記念して開館
- ・教育資料館には、“教育県山形”の教育のあゆみを展示

◆附属自然学習園(琵琶沼)

- ・昭和51年4月 開設
- ・貴重な湿原と動物、植物の保存、活用をはかり、自然を愛する心を育てるために開設
- ・自然学習園は、白鷹山中腹にある琵琶沼とそのまわりの山林で、県民の森の一部になっている。県指定天然記念物

県立博物館を取り巻く現状

1. 施設の老朽化

- ◆ 令和5年4月で開館52年となり、空調設備、電気設備、配管、火災報知器の老朽化など施設・設備面で多くの課題を抱えている。

2. 豊富な収藏品と収蔵スペースの不足

- ◆ 県立博物館が有する資料数は約305,000点と東北では最多クラスの資料を有している。一方で、保存する収蔵スペースが狭く、全ての資料を収蔵できない状況にあるため、外部の会議室等を借りて対応している。

3. 現在地からの撤去

- ◆ 山形市による霞城公園の保存整備に伴う「山形城跡保存管理計画」の合意により、現在地からの移転が必要である。
- ◆ 移転時期は「近年中に移転することは困難であるため、代替施設完成時に移転を行うものとする」とされ、具体的な年次は示されていない。

移転整備の検討にあたっての留意事項

1. ニーズの多様化への対応

来館者のニーズの多様化に伴い、博物館には「保存・収集」、「調査研究」、「展示」、「教育・普及」などの本来の機能に加え、観光、地域振興など幅広い役割が求められている。

2. 開館までに要する期間

他県の事例などから、基本構想段階から開館まで、一般的に10年程度を想定。それを見据えた検討が必要。